

川俣精機(株)

リスクコミュニケーション

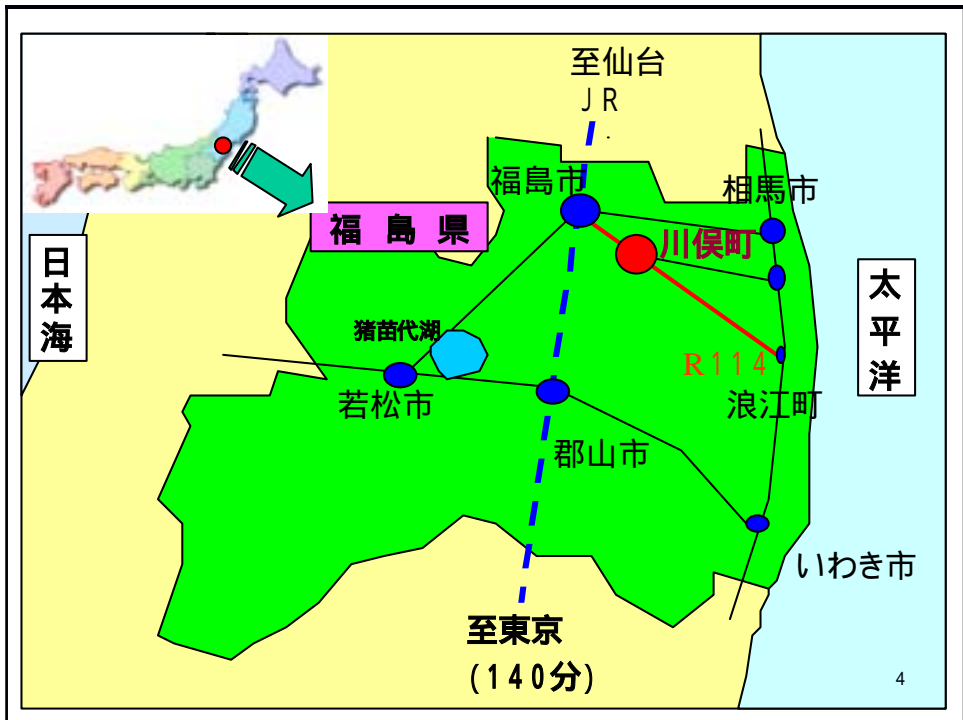
阿武隈の美しい自然を守るため、
地域社会との協調・連帯を
図って活動します。
当社環境基本方針より

1

報告の順序

1. 会社紹介
2. 環境基本方針と活動
3. 製品紹介(製品と化学物質の係わり)
4. 化学物質の使用状況
5. リスクコミュニケーションの取り組み
6. 今後の課題について

2





川俣精機株式会社

- 創立 : 1943(昭和18)年
- 資本金 : 2.75億円
- 売上 : 30億円(04年度)
- 従業員 : 195人(05年4月)
- 敷地 : 31,560m²
- 建物 : 11,107m²
- 工場 : 本社工場:事務,素材加工部門
富田工場:組立部門
- ISO登録 : 1999年にISO14001審査登録

**川俣精機(株)の基本方針(企業の社会的責任)
CSR:Corporate Social Responsibility)**



7

川俣精機(株)環境保全基本方針(骨子)

環境保全を経営の重要課題の一つとして取り組みます。

環境負荷の低減, 汚染の防止を図ります。

環境保全に関する法令を順守します。

規制化学物質の削減, 産業廃棄物の低減, 省エネルギーを推進します。

製品については, 環境調和型製品を開発します。

グリーン調達を推進します。

取引先などに対して指導・支援を行います。

阿武隈の美しい自然を守るため, 地域社会との協調・連帯を図って活動します。

8

主力製品紹介

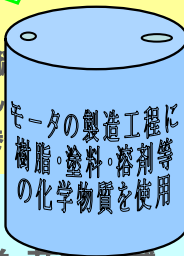
製品名: **直流電動機**

外観: **製鐵／製紙用**

特長: **今後も直流機を製作・修理継続する
日本唯一の製造メーカー**

川俣精機

- ・ギア付、ブレーキ付、編み込み型
- ・ニーズにお応え致します
- ・他社製品の修理・巻線



用途例: 業種別
鉄鋼・製紙・化学・荷役機械
セメント工業・水道・工作機械

定 格:
 製作範囲 **5w ~ 1200kW**

荷役機械用

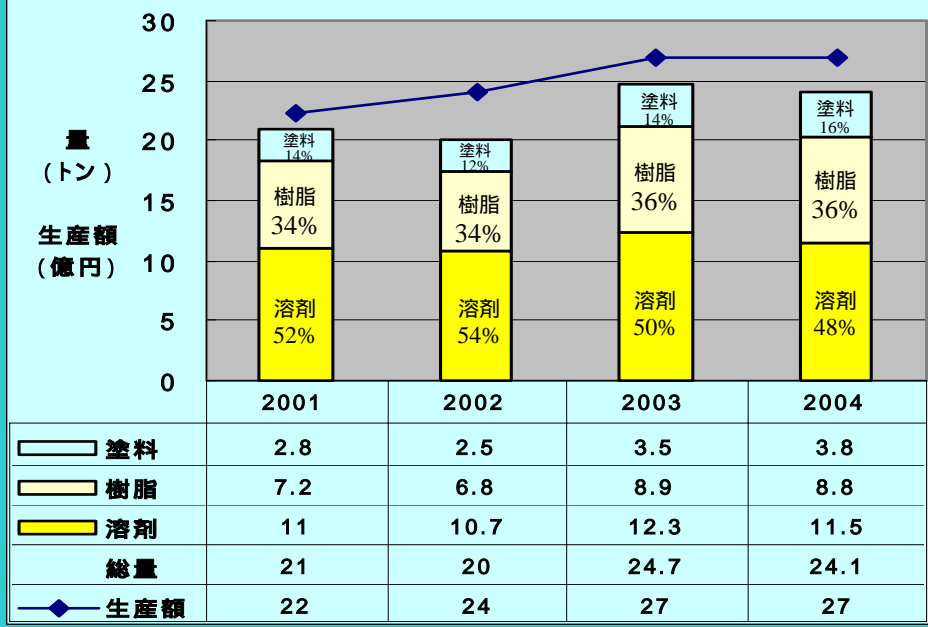


製鉄用
縦型電動機

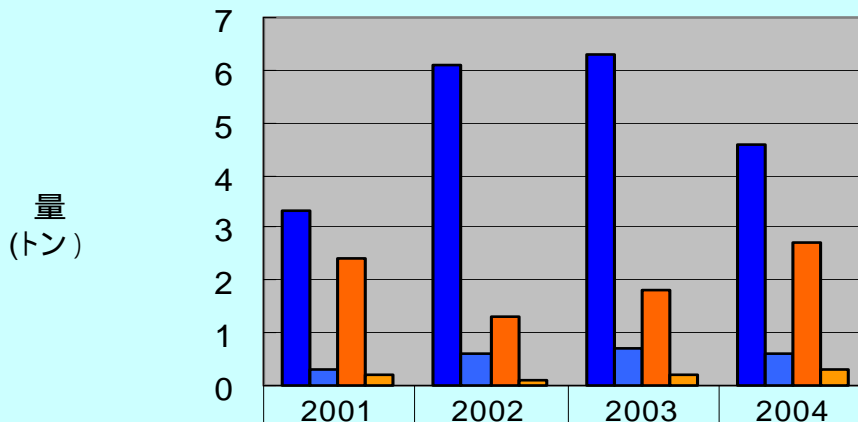


電力補機用

製造量と化学物質使用量推移



PRTR物質排出量・移動量推移



■ トルエン (排出量)	3.3	6.1	6.3	4.6
■ (移動量)	0.3	0.6	0.7	0.6
■ キシレン (排出量)	2.4	1.3	1.8	2.7
■ (移動量)	0.2	0.1	0.2	0.3

リスクコミュニケーション セミナーへの参加

- * 「PRTRデータ活用セミナー」 04年 6月 経済産業省
- * 化学物質リスクコミュニケーション推進セミナー
04年 9月 福島県
- * 化学物質リスクコミュニケーションに関する意見交換会
04年11月 福島県
- * 化学物質リスクコミュニケーション推進セミナー
05年 7月 福島県
- * 化学物質リスクコミュニケーションに関する意見交換会
05年11月 福島県

リスクコミュニケーション推進セミナー で取り組みの必要性を自覚

* 社長に推進セミナー・懇談会の報告結果

次の指示があった。

企業には種々のリスクがあるが、その一つとして
リスクコミュニケーションは大切な活動である。

この機会に地域とのコミュニケーション(信頼関係)
を促進して行きたい。

以上を基本に取り組みを開始すること。

* 具体的には総務・環境担当間で進めること。

13

地域コミュニケーションの取り組み 過去の経過と現在の状況

* 過去の経過

- ・30年に渡り盆踊り大会を開催し町の一大イベントとして地域の皆さんと交流を図ってきた。
- ・平成5年「からりこフェスタ」と銘打って町の夏祭りが開催され、要請により盆踊りは夏祭りに合併した。

* 現在

- ・当社稲荷神社の例大祭に合せ春のリクリエ ション(花見・ミニ運動会)を開催している。
- ・当イベントには地域の皆さんは招待していなかった。

14

リスクコミュニケーションの取り組み どこからどう取り組みを行うか。

- * 当社は盆踊り大会以降長期のブランクがあり、県の推進セミナーで「出来ることから始めて欲しい」との指導(提案)を基に段階的に取り組むことにした。
- ・第一段階の例:工場見学,夏祭り,自治会との定期会合
- ・第二段階の例:環境報告書を基にした説明,意見交換
- ・第三段階の例:P R T R デ - タに基づくリスクに関する意見交換等

15

リスクコミュニケーションの 取り組み開始

- * 第一段階の取り組みを次の3つの視点からを行った。
- 1. 地域とのコミュニケーション
- 2. 環境活動の公表
- 3. 地域との交流・貢献

16

リスクコミュニケーションの 取り組み開始

1. 地域とのコミュニケーション

- ・ 春のリクリエ ション大会
(花見兼ミニ運動会)に工場に隣接する地域住民の皆さんを招待し、工場見学
環境施設等の見学後、レ
クリエ - ションに参加いた
だいた。



17

リスクコミュニケーションの 取り組み開始

2. 環境活動の公表： 環境報告書公表の拡大

- (1) 県・町・消防署・関係会社・学
校・取引先へ公表の拡大
- (2) 当社のホームページに環境
活動を追加し紹介
- (3) 県のホームページに掲載さ
れた。



「当社環境報告書表紙」

18

リスクコミュニケーションの 取り組み開始

3. 地域との交流・貢献

- (1) 行政・地域・学校等の
 行事への積極参加
- (2) 地域行事への援助
 駐車場・グランド・社有車の
 貸出等
- (3) 地域隣接の施設清掃
- (4) 工場見学, 中・高校の体験
 学習の受入れ等



「川俣町道の駅に風力発電を贈呈」

地域の行事への参加風景



この呼びかけに参加しました。



広瀬川清掃風景



工場隣接地の清掃風景

リスクコミュニケーション

第一段階の結果と今後の課題

1. 第一段階の取り組み結果
2. 第一段階の課題への取り組み。
3. 今後の進め方

21

1. 第一段階の取り組み結果

- * 春のリクリエ ションに招待した地域の会社OB・取引先の皆様には全員参加いただきましたが、地域住民の皆様は数名の参加に留まりました。
- * 交流が途絶えていたブランクの大きさ、開催条件等に課題が残りました。
- * 参加出来なかった地域の皆様に、用意した品をお届けし「**今度はお出っかない**」という言葉をしていただき次回に繋がる接点は出来たと考えます。

22

2. 第一段階の課題への取り組み

- * 全社の活動へ。 部課長研修会の実施
部課長はリスクコミュニケーションを理解し、全社及び地域における活動を行う。
地域に貢献しリーダ的な存在に。
- * 主管する総務・環境担当は。
地域の皆さんが参加できるイベントの企画
自治会長さんとの交流を図り、「誘い合って」参加いただく体制作り。

23



3. リスクコミュニケーションの今後の進め方

計画通り毎年春のレクリエーションを定期開催日とし次のステップで実施したい。

第一段階：今回実施の課題を改善し継続する。

第二段階：環境活動の紹介や意見交換を行い環境・化学物質に対する理解を深め合って、安心感・信頼感を醸成してまいります。

第三段階：PRTRデータに基づく意見交換へとスパイラルアップを図ります。

*** 地域に信頼される企業に努力してまいります。**

25



ご清聴ありがとうございました

富田工場

川俣精機株式会社
Tel: 024 565 3111